

訪問介護職員を対象にたん吸引の実技指導を担う看護師ら



たん吸引を実技指導

市 訪問介護職員に無料で

10.4.27 道新

札幌市は、訪問介護を行っている市内の介護職員に対し、たんの吸引を実技指導する事業を26日から始めた。1年間限定のモデル事業。市は「より多くの事業所にたん吸引技術の必要性を理解してほしい」と話している。

市の委託を受け指導を担うのは、難病患者や家族らでつくる難病支援ネット北海道(中央区)。同団体が採用した看護師4人が、指導を希望する事業所を訪問し、人形を使って実技指導する。また慣れるまで患者宅に介護職員と同行、マンツーマンで技術向上を図る。

たん吸引は、吸引器の細いゴム管をのど奥に入れてたまったたんを取り除く医療行為で、医師と看護師にしか認められていない。ただ、たんが詰まるたびに医師らが日に何度も家庭を訪れるのは難しいのが現実だ。

このため、厚生労働省は5年前から特例として患者や家族の同意を得た場合には訪問介護職員が行うことを認めているほか、今年からは特養老人ホームの介護職員についても認める方針を打ち出している。

しかし、事故を恐れて市内の訪問介護事業所の中には、介護職員にたん吸引を行わないよう指導している所もあり、技術向上の足かせとなっていた。

指導料は無料。問い合わせは、同団体 ☎ 11・6853 (平日午前10時～午後4時) へ。

(粕谷武史)